

令和

3 年度 事務事業評価シート

事務事業の概要・計画 (PLAN)

| | | | | | | | |
|-----------------|--|-------------------|--|------|------|--------------|---------------------|
| 事務事業名 | 母子父子自立支援事業 | 会計名称 予算科目 | 一般会計 3 款 2 項 5 目 | 事業番号 | 1770 | 担当課 所属長名 | 子育て支援課 太森真喜恵 |
| 事業評価の有無 | <input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ) | | | | | 担当責任者名 | 大野舞 |
| 法令根拠等 | 母子及び寡婦福祉法 | | | | | 実施期間 【開始】 | 令和／平成 17 年度 |
| 総合計画での位置付け | 健康福祉都市の創造 次代を担う子どもたちの育成支援 | | | | | 【終了】 | 令和 年度(予定) ■ 設定なし |
| 総合計画における本事業の役割 | 総合計画の政策を達成するために、次代を担う子供たちの育成支援を推進した。 | | | | | | |
| 事業の対象 | 市内に居住する母子家庭・寡婦（ひとり親家庭の親） | 事業の目的 | 母子家庭・寡婦の方の生活一般の相談に応じ、経済・教育などの諸問題の解決を助け、その自立に必要な指導にあたる。 | | | | |
| 事業の内容 (整備内容) | 母子家庭・寡婦の方の生活一般の相談、母子寡婦福祉資金貸与、修学資金等に係る窓口業務。 | 昨年度の課題に対する具体的な改善策 | | | | | |

事業活動の内容・成果 (DO)

| 事業費及び財源内訳（千円） | | | | | | | 事業活動の実績（活動指標） | | | | | | | | |
|-------------------------|----------|---|-------|--------|-------|------------------|---------------|---------|--------|----------|--------|-------|--|--|--|
| 項目 | 前年度決算 | 当初予算額 | 補正予算額 | 継続費その他 | 翌年度繰越 | 決算額 | 項目 | 単位 | 前年度実績 | 3年度予定 | 9月末の実績 | 3年度実績 | | | |
| 直 接 事 業 費 | 1,396 | 3,875 | 0 | 0 | 0 | 3,799 | 支援措置事業数 | 事業 | 1 | 3 | 3 | 3 | | | |
| 国 庫 支 出 金 | 1,058 | 2,813 | 0 | 0 | 0 | 2,813 | | | | | | | | | |
| 県 支 出 金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| 地 方 債 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| そ の 他 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| 一 般 財 源 | 338 | 1,062 | 0 | 0 | 0 | 986 | | | | | | | | | |
| 職員の人工（にんく）数 | 0.45 | 0.30 | | | | 0.30 | | | | | | | | | |
| 1人工当たりの入件費単価 | 7,812 | 7,841 | | | | 7,841 | | | | | | | | | |
| ※ 直接事業費+入件費 | 4,911 | 6,227 | | | | 6,151 | | | | | | | | | |
| 主な実施主体 | 直接実施 | 実施形態（補助金・指定管理料・委託料等の記載欄） | | | | | | | | | | | | | |
| 向こう5年間の直接事業費の推移 (千円) | | | | 4 年度 | 5 年度 | 6 年度 | 7 年度 | 8 年度 | 5年間の合計 | | | | | | |
| 成 果 指 標 | 指 標 | 支援措置事業数 | | | 単位 | 区分年度 目標 実績 | 前 年 度 | 3 年 度 度 | 4 年 度 | 目標 每 年 度 | | | | | |
| | | 事業 | 2 | 3 | 3 | | 3 | | | | | | | | |
| | 指標設定の考え方 | 本市では、保育所入所、児童クラブ入会、公営住宅入居等について は、母子家庭に対する優遇措置がある、平成27年度においては、母子 家庭等自立支援事業を開始し、「ひとり親」に対する措置を講じた。 今後も支援事業を拡大していく予定のため、措置事業数を成果指標と する。 | | | | | 1 | 3 | | | | | | | |
| | | 指標で表せない効果 | | | | | | | | | | | | | |

事務事業評価（CHECK）

| | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|-------------|---|--------------|--|---|---|---|-------------|--|--|--|
| 新たな課題や当初の改善策に対する対応状況（今年度の途中経過） | | 事業利用者に対して、関係する制度等を周知することで、よりよい市民サービスに努める。 | | | | | | | | | |
| 事務事業の評価 | 自己判定（担当責任者） | 妥当性 | 目的の妥当性 | 5 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 4 3 概ね、施策の目的に沿った事業である。 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 | 4 | 合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | A | 事業成果・工夫した点 | 事業利用者について、毎月請求書を持参する際に面接を行い、状況の確認に努めた。 | | |
| | | | 社会情勢等への対応 | 5 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 4 3 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 2 1 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 | 4 | | | | | | |
| | | | 市の関与の妥当性 | 5 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 4 3 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 2 1 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。 | 4 | | | | | | |
| | | 有効性 | 事業の効果 | 5 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 4 3 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 2 1 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 | 4 | 合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | A | 事業の苦労した点・課題 | 事業利用者からの問い合わせに対し、相手の納得のいく対応ができなかったため、一層市民目線に寄り添った対応を心がける。 | | |
| | | | 成果向上の可能性 | 5 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 4 3 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 2 1 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 | 3 | | | | | | |
| | | | 施策への貢献度 | 5 施策推進への貢献は多大である。 4 3 施策推進に向け、効果を認めることができる。 2 1 施策推進につながっていない。 | 3 | | | | | | |
| | 一次判定（所属長） | 効率性 | 手段の最適性 | 5 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 4 3 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 2 1 活動指標の実績も上がりず、効率的な手段の見直しが必要である。 | 3 | 合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | A | 事業の方向性 | ■ 事業継続と判断する。 □ 事業縮小と判断する □ 事業廃止と判断する (判断の理由) ひとり親家庭の自立支援のため、国が定める事業であり、今後も継続する必要がある。 | | |
| | | | コスト効率 | 5 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 4 3 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 2 1 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 | 4 | | | | | | |
| | | | 市民（受益者）負担の適正 | 5 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 4 3 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。 | 4 | | | | | | |
| | | 効率性 | 目的の妥当性 | 5 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 4 3 概ね、施策の目的に沿った事業である。 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 | 4 | 合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | A | 所属長の課題認識 | ひとり親家庭の自立支援対策として重要な事業であるため、今後も制度改革等の情報を確認し、該当者への周知・啓発に努めていく必要がある。 | | |
| | | | 社会情勢等への対応 | 5 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 4 3 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 2 1 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 | 4 | | | | | | |
| | | | 市の関与の妥当性 | 5 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 4 3 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 2 1 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。 | 3 | | | | | | |

| | | | | |
|---|------------------|---|---|--|
| 施 策 を 踏 ま え た 判 断 | 二 次 判 定 | <input type="checkbox"/> 一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。 <input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業継続と判断する。 <input checked="" type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。 <p>ひとり親家庭等の資格取得を支援する本事業は、就業による自立において必要な事業であるが、長期化するコロナ禍を踏まえ、「母子及び父子並びに寡婦福祉法」等に基づく母子父子自立支援員が、子ども総合センターやハローワーク等と連携し、きめ細かな支援等を継続して行う必要がある。</p> <input type="checkbox"/> 一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 <input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 <input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 <input type="checkbox"/> 既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。 |  | 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | |
|------------|------------------|-------|
| 行政評価委員会の答申 | 外 部 評 価 | 答申の内容 |
|------------|------------------|-------|

今後の方針性（ACTION）

| | | |
|----------------------------------|--------|--|
| の経 最 終 者 判 会 議 | 事業の方向性 | コメント欄 |
| | | <input type="checkbox"/> さらに重点化する。 |
| | | <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する。 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの上、継続する。 |
| | | <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。 |
| | | <input type="checkbox"/> 事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。 |